

季刊ジャネット Ja-Net

スリーイーネットワーク

October 2020

No. 95



Contents

- 4 あちこち日本語ご紹介
インド ニューデリー
- 5 みんなの“日本語View from the Other Side”
ビジン デービス(インド)
- 6 教材紹介
『JLPT ポイント&プラクティス』シリーズ
『JLPT 聴解N3 ポイント&プラクティス』
- 8 インフォメーション



巻頭寄稿

「対話」から「理解」が始まる

東京富士語学院 副校長・教務主任
博士(教育学)

倉八順子



授業中はフェイスシールドを付ける学生も。東京富士語学院は目の前に東京スカイツリー、近隣には浅草など日本の新旧の文化を学ぶことができ、交通至便な場所に位置する

コロナ感染で考えたこと

グローバル社会といえば国境を越えたヒト、モノ、カネの往来がもたらす光の面が強調されてきました。そのグローバル社会に遅れまいと、私たち日本社会も多文化共生社会の創出に向けて歩みを進めていました。

2019年12月武漢で始まった新型コロナウイルス、私にとって最初は他人事おのでしかありませんでした。恐れ慄く中国人学生の話の聴きながら、私は「清潔を保っている現代の日本は大丈夫。ペストやスペイン風邪の時代じゃないのだし」と思っていました。

ところが、何千万もの人が世界中

を行き来することが、感染を一気に拡大させることになりました。コロナ感染は私たちに、グローバル社会は陰の部分でもつながっていることに気づかせてくれました。こんなときこそグローバルな共生—多文化共生—が必要なのに、私たちはこころを閉ざし、社会の時間は凍り付きました。他者に向けられる“つめたいまなざし”、憎しみのことばの氾濫、“異”と感じられるものへの差別、社会の分断…。それは日本だけでなく、パンデミックによって日常を壊された世界各国へ広がっていった現象でした。

今、私たちはまだコロナ禍にいますが、自粛の経験に学び、社会を再構築しつつあります。私自身もオンラインの技術を身につけ、他者とつながり、“つめたいまなざし”ではなく“やわらかなまなざし”で人々と共生していきたい

という信念が強くなったように感じて
います。

パンデミックを経験した今、 なぜ「対話」が必要なのか

親和欲求をもつ人間は、自分とつ
ながる人に“やわらかなまなざし”を向
け、自分とつながらない人に“つめた
いまなざし”を向ける傾向をもっていま
す。他者を、「異文化」として拒絶し、
“つめたいまなざし”で見ている場合、
あるいは、自分が上にたち、支援が必
要な人だから助けてあげなければなら
ないという“パターナリズム(父権主
義)のまなざし”で見ている場合、自
己が脅かされる緊急の状況がきつ
かくなって、他者への反感(バック
ラッシュ)がおきます。反感は人を暴
力的な行為へと矮小化させます。そ
れが憎しみの言葉の氾濫となり、
“異”と感じられるものへの差別につ
ながります。ウイルスの流行と憎しみの
言葉の氾濫、そこには深いつながりが
あります。それではウイルスによる感
染が憎しみに矮小化しないようにし、
社会の分断を引き起こさないようにす
るには、どうすればいいのでしょうか。

それは私たちだれもが“ウイルス”を
もっていることに気づくことです。だれ
もが、“差別”のこころを抱えているこ
とに気づくことです。アルベール・カ
ミュの『ペスト』には“ウイルス”が他者
や社会に突きつけるものへの示唆が



世界遺産キャンディ
にある仏歯寺にて。
スリランカの現地ガ
イドヌラさん(右)
と筆者

綴られています。カミュは登場人物の
一人、タルーにこう語らせています。
「誰でもめいめい自分のうちにペスト
をもっているんだ。なぜかといえば
誰一人、まったくこの世に誰一人、
その病毒を免れているものはないか
らだ。そうして、引っぱりなしに自分
で警戒していなければ、ちょっと
うっかりした瞬間に、ほかのものの
顔に息を吹きかけて、病毒をくっ
つけちゃうようなことになる。自然な
ものというのは、病菌なのだ。」*1

21世紀のパンデミックは、世界中の
人々に、自分の中にある“ウイルス”への
気づきをもたらしました。“ウイルス”は、
傷つけあい、摩擦や葛藤をもたらしま

す。しかし、この摩擦、葛藤こそが、
今までの私たちの枠組みを広げ、新た
な創造をもたらすエネルギーともなっ
ていくことを歴史は教えています。

20世紀のロシアの哲学者バフチン
は、文化的衝突から来る摩擦や葛藤
を創造性に変えるものを「対話(ダイ
アログ)」と呼び、摩擦や葛藤を正
面から見据え、積極的に相互作用に
向かう勇気を与えるのが、自己と他者
の変革を引き起こす内的なかかわり
による「対話的能動性」であるとした。
「それは、質問し、挑発し、応答し、
同意し、反駁する能動性であって、
即ち対話的な能動性である。(中
略)これは、言うならば、神が人間
に対して持つ能動性である。(中略)
人間自身に徹底的に自己を開示さ
せ、自己自身を裁かせ、自己自身を
論駁させる」*2

摩擦から引き起こされる「対話」が、
人を啓き、自らを省みさせ、それまで
の自分の狭い枠組みから解き放ち、
他者とのあいだに理解を生むのです。

“やわらかなまなざし”で 人々と共生していきたい



1975年にアジア象の絶滅を食い止めるため、スリランカ政府の野生生物保護局によって設立されたピンナワラの象の孤児院では、現在約100頭の象が暮らしている



「早くコロナが収束しますように」七夕の笹飾りに学生たちの願いをのせて

「対話」の実践がもたらす相手へのリスペクト

私は、多文化共生をライフワークとして、「対話」の実践を行っています。そんな中で、留学生の出身地を訪れ、学生たちの文化について考える作業を重ねてきました。

2016年夏、春から担当したスリランカの学生たちの文化を知るために、スリランカを訪れました。かれらは授業中、シンハラ語で話し続け、ジュースを回し飲みし、ケータイ箱に回収したケータイを抜き取るなどし、「文化的

衝突からくる摩擦・葛藤」の日々でした。「日本人は冷たいから！」と言う「挑発」を身に引き受け、私の中に「かれらの故郷を訪れてみよう！」という「対話的能動性」が生まれました。スリランカを訪ねた私は、現地ガイドのアヌラさんと出会い、共にスリランカを一周しました。仏教をこころの支えとしてしづかに働いているひとたちの姿が、ここに沁みました。

母親象と離れてしまった子象のための孤児院も訪ねました。やさしい文化が私の中に伝わってきました。「アヌラさんがいつも行くカレー屋さんにつれていって！」最後の日、私はアヌラさんに頼みました。アヌラさんは、「ここがいつも来るレストランです。ここでは私は手で食べます。」と、指で骨をとりわけて、カレーを食べました。「スリランカのカレーは手で食べるのが一番おいしいんです」。私には、アヌラさんの手が仏の手のように感じられました。自分の狭い枠組みから解き放たれ、スリランカ人へのリスペクトが生まれてくるのを実感しました。

夏休み後、日本の教室でスリランカの学生たちにスリランカへ行ってき

たことを伝えました。あのうさかった学生たちは、私の授業を聴くようになりました。私のスリランカ人へのまなざしが、“やわらかなまなざし”へと変わったことを、スリランカ人の学生たちは感じたのだと思います。

みんなと一緒に頑張ろう！

オンライン授業が始まってから学生たちに「コロナ感染で考えたこと」という作文を書いてもらいました。

中国人のある学生の作文の最後はこのように結ばれていました。

「ある日たまたまニュースで知ったのは、『日本は中国に救いの手を差し伸べる』という文章でした。サプライズを感じるとともに、その文章を読みました。このような助け合いのやさしい行為に感動しました。コロナウイルスの悪い影響が大きいのは事実ですが、人と人の間も、国と国の間も、良好な関係はいつも維持できます。どんな大変な状況も、みんなで一緒に頑張ったら、ウイルスもいつか治るでしょう。」(傍点筆者)

引用文献

- *1 アルベール・カミュ『ベスト』新潮文庫 宮崎嶺雄 訳 1969年 P.376
- *2 ミハイル・バフチン『ことば 対話 テキスト』(ミハイル・バフチン著作集8)新時代社 新谷敬三郎・伊東一郎・佐々木寛 訳 1988年 P.247

倉八順子(くらはちじゅんこ)

慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程修了。博士(教育学)。明治大学農学部助教授を経て、現在、東京富士語学院副校長・教務主任。

多文化対話教育研究所代表、和洋女子大学講師(日本語教員養成課程)、NPO法人たちかわ多文化共生センター理事。



インドのコロナ事情と オンライン授業

日本語センター 代表 名須川典子

インドのコロナ禍が本格的に始まったのは、今年3月のことだった。そのうち収まるだろうと楽観的に考えていた2月が嘘のようだ。3月25日から世界でも類を見ない厳しいインドのロックダウンが、5月末まで続いた。コロナか経済か。ロックダウンによる更なる景気の悪化。失業率の増加。家賃が払えない、食料が買えない人達が多く出始めた。そのため、感染者が日々増えているにもかかわらず、6月からロックダウンが条件付で解除されている。9月30日時点でのインド全体の感染者数(公式発表)は約600万人、1日の新規感染者数は9万人を超える日も出てきている。

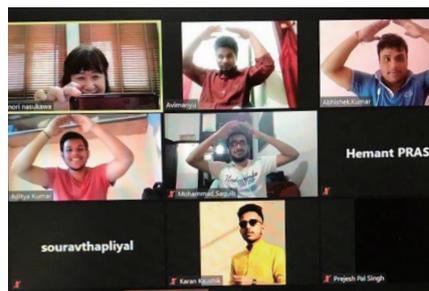
私が住んでいるニューデリーでは、ロックダウン解除に伴い、人出が目立つようになってきた。その反面、一切家から出ない人もいる。「コロナとともに生きよう。自分の管理は自分で」というスローガンが、政府から発表されてからは、各人が、それぞれの立場で判断している。

教室の世界から「小さい画面」の世界へ

日本語センターでは、他の教育機関同様、3月のロックダウンからの対



初級クラスで学生に質問(あなたはインド人ですか等)をして、「はい」「いいえ」で答えてもらう練習



教師の「わかりましたか」に対して「はい、わかりました」をジェスチャーで示す

面授業の停止措置に基づき、すべてのコースを急遽停止。しばらく状況を見ていたが、再開の見込みが立たないと判断。4月からすべてのコースをオンライン授業に切り替えた。何もかもが不慣れだったが「できない」では済まされない鬼気迫るものがあった。ゼロからのスタートは教師だけではない。学生も、右往左往しながら「授業への入り方がわからない」からのスタートである。

Zoomの使い方から始まり、教室での対面授業とは勝手が違う教え方と、

学生とのインタラクションのとり方…。教室の世界から、「小さい画面」に移行した。教室で使っていた絵カードは大きすぎて画面に入らない。逆に教室では使えなかった小さいレリア(生教材)が大活躍など思ってもいなかったことが次々に起こった。

オンライン授業への一筋の光

最初の1カ月は試行錯誤の連続だった。オンライン授業での日本語習得の可能性もわからないまま、とにかく前に進んだ。一つひとつの授業に一喜一憂し、苦しいなかで一筋の光が見えたり…。嬉しいことに、今では学生たちもこのスタイルに慣れ、学習の成果が出始めている。オンラインでの企業研修も実施しているのだが、実際に一度も会ったことがない学生たちと毎日コンピュータ越しに、朝から晩まで向き合い、約1カ月で日本語能力試験N5到達を果たすことができた。

現在は、N4を勉強中だ。会話もかなりできるようになってきて感慨深い。ひらがな、カタカナ、漢字もきれいに書けるし、日本語入力だって速くなった。試験の成績も非常にいい。同期型(オンライン授業)と非同期型学習(学習者のペースで既に配信された動画での学習や課題などを行うこと)の成果と、学生との「つながり」を大切にした結果かもしれない。もちろん、学生あってのことなので、この経験がすべてのコースに適用されるわけではないが、この経験を通して、私の中でオンライン授業への一筋の光が、大きく広がったのは言うまでもない。

みんなの“日本語View from the Other Side”

このコラムでは、学習者や日本語に携わる方の視点から話題をお届けします



ビジン デービス

1993年 千葉でインド人の父と日本人の母との間に生まれる。

1995年 インドのケララへ移住。

2011年 Srishti Institute of Arts, Design & Technology (Bangalore, India) 卒業。家具・工業デザイナーの道へ。

2019年 東京の武蔵野美術大学大学院工芸工業デザイン学科へ進学。

現在、コロナ禍のためインドへ戻り、オンラインで大学の授業を受講中。

illustration 内山洋見

夢は インドの技術と 日本のデザインを 融合させること

日本の美術大学に通う、家具・工業デザイナーのビジンさんに聞きました。

読み書きはできません。ひらがなやカタカナのような基本的な文字も書けません。そのため、大学の授業は苦勞していますが、Google翻訳を使ったり、友達や家族に翻訳を助けてもらったりしています。

—東京の大学生活はどうですか？

いつも新しい人との出会いを楽しんできたので、大学生活は快適で充実しています。また、メンターとして私をサポートしてくれる素晴らしい教授が二人いるので、心強いです。

住まいは、様々な国籍・業種・世代が住むシェアハウスです。一人で日本に引っ越してきて知人がいなかったもので、50以上の部屋がある一番人数の多いシェアハウスを選びました。

若者が多い渋谷でアルバイトもしています。仕事と学生生活のバランスをとることは難しいですが、楽しい日々を送っています。

東京はテンポの速い都市なので、ときにはついていけないことや迷うこともあります。そんなときは東京でできた友達に話を聞いてもらっています。友達には感謝しています。

—現在はインドへ戻り、大学の授業はオンラインで受講されているそうですね。

オンライン授業は、初めはやりづらかったですが、私はすべてにおいて楽観的なため、今では家でくつろぎながら勉強ができています。

コロナ禍に新しいアイデアを考えるのは難しいですが、デザイナーとして多くの学ぶべき新しいことがあると思っています。そのため、この時期に自分ができていることに集中しています。唯一の欠点は、キャンパス内のワークショップや施設を利用できないことです。

—卒業後の目標は？

卒業後は日本での仕事に応募するか、または自分のブランドや仕事を立ち上げることを考えています。

—将来の夢は何でしょう？

夢は、インドの工芸技術と日本のデザインの両方の世界を融合することです。商品を作るときに文化を共有できるようなユニークなブランドを作りたいです。たぶんそれは大きな夢のように思いますが、私はまだ27歳です。これからの人生でそれを達成できるように努力し続けようと思います。

—なぜ日本で美術を学びたいと思ったのですか？

日本はシンプルかつスマートなデザインで有名です。インドは複雑で華やかな美しい手作りの製品と職人技で知られています。インドのデザインセンスは日本とは真逆のようです。これまでインドでしかデザインを学んでいなかったもので、日本でデザインを学んでみようと思いました。

—日本語はどうですか？

日本語を話す家で育ったため、自然と話すことはできるようになりましたが、

ビジン デービス作品ウェブサイト
<http://www.bijindavis.com>

「JLPT ポイント&プラクティス」シリーズ

日本語能力試験対策問題集の新シリーズ発行!

「ポイント&プラクティス」シリーズとは

日本語能力試験 (Japanese-Language Proficiency Test) は、2010年に受験者やその目的の多様化、活用の場の広がりなどを受けて「課題遂行のための言語コミュニケーション能力」を測る試験として生まれ変わり、今に至ります。それにともない問われる内容の範囲は非公開となりましたが、学習者にとって膨大な言語知識を学び、その運用力を高めることは簡単ではありません。中でも非漢字圏の出身者や、勉強時間の確保が難しい人にとっては、合格までの道りは非常に困難なものであることが少なくありません。

本シリーズは、受験者の皆さんが、試験に必要な最低限の力を短期間で身につけ、合格に近づけるように考えられた対策問題集です。「文法」「文字・語彙」「読解」「聴解」それぞれの著者によって厳選された学習項目について、問題を解きながら理解を深め、力をつけることを目指します。

『聴解 N3』を皮切りに、N3、N4 レベルから、順次発行いたします。

特長

① 短期間でできる

「文法」「文字・語彙」は20回～30回、「読解」「聴解」は12回～15回の取り組みで終わられるように構成しています。

② 試験形式の練習問題と充実した解説

練習問題は、本試験と同形式のものを中心に収録しています。また、問題ごとに解説(英語・中国語・ベトナム語訳付き)があるので、一つひとつしっかり確認し、疑問を解決しながら進めます。



*デザインはイメージです。変更になる可能性もあります。

・シリーズ全20冊



③ 厳選された学習項目

試験合格に向けて「これだけは知っているべき」と考えられる、より重要な項目に絞って学習します。従来の対策テキストでは量が多すぎて消化しきれない、という人にも取り組みやすくなっています。





『JLPT 聴解N3 ポイント&プラクティス』

中村則子・田代ひとみ・初鹿野阿れ・大木理恵 著
B5判 76頁 別冊62頁(予定) 1,500円+税 12月発行予定

問題を解きながら効率的に聴解能力を高める

早稲田大学非常勤講師 中村則子

本書は、日本語能力試験の対策問題集「ポイント&プラクティス」シリーズの一冊で、N3レベルの聴解練習を効率的に行い、合格を目指します。

特長

① 本書では、「習うより慣れろ」の精神で、はじめから実際の試験と同じ形式の問題を解いていきます。N3の聴解試験には5種類の問題形式がありますが、それぞれの問題形式の概要とその問題に合った聞き方のポイントを学んだあと、すぐに実際の試験同様の練習問題を解きます。数多くの問題を解くうちに、問題形式によって聞き方を変えるなど、実践的なコツが身につきます。

② 本書は解答の解説が充実しており、独習も可能です。別冊の「解答・解説」では、正答とその解説だけでなく、誤答の理由にも触れました。すべて翻訳(英語、中国語、ベトナム語)がついていますので、学習者は負担なく、自分がなぜ間違えたか、理解が足りなかったところはどこか、確かめることができます。

③ 本冊の終わりの部分に、試験に出やすい基本項目がリストとしてまとめられています。リストには、「あいさつ」「敬語」「依頼」「許可求め」などの表現が例文とともに出されており、似たような表現、間違いやすい表現などを

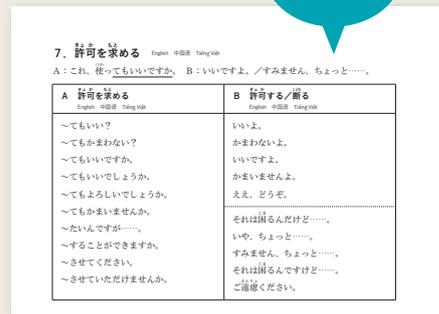
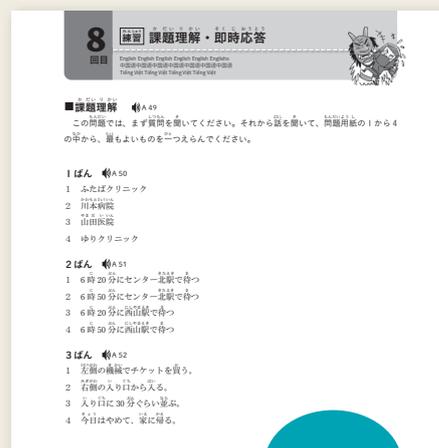
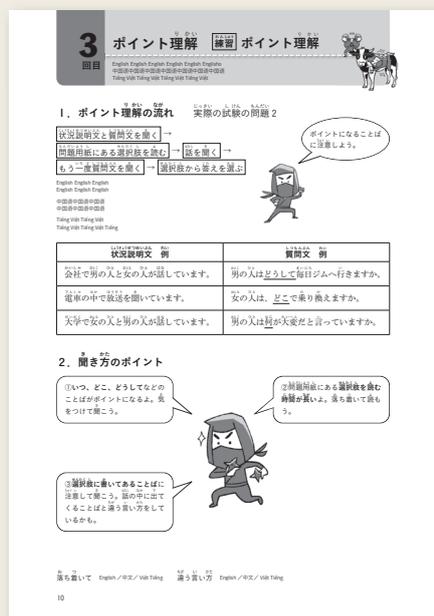
確認することができます。また、聴解に必須となる「イントネーション」による意味の違いは、音声付きで載せました。例題や練習問題の解説に、このリストの参照先が➡で示されていますので、問題を解いたあと、活用してください。また、試験前の頭の整理にも役立ちます。

内容

・本冊
問題パート：全12回。1回を45分の授業で扱えるように、各回には3～7題の練習問題があります。新たな問題形式を学ぶ回には、その問題形式の説明、例題、解説が冒頭に入っています。

模擬試験：1回
リストパート：20項目
・別冊
スクリプトと解答・解説(英語、中国語、ベトナム語の翻訳付き)
・音声：CD2枚付き

聞き取りが苦手だという学習者の声をよく聞きます。本書では、イラストや表を用いて視覚的にも楽しく、わかりやすく学べるように工夫しました。本書を多くの方に活用していただければ幸いです。



リスト



はじめて学ぶ介護の日本語 生活知識とコミュニケーション
 新訂版 トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級
 JLPT聴解N3 ポイント&プラクティス

1,500円 10月発行
 1,500円 10月発行
 1,500円 12月発行予定

お知らせ

【教材紹介動画】公開

弊社ウェブサイトからご自由にご覧いただける「教材紹介動画」を公開しました。今回は著者に教材の概要や、授業での使い方などをお話しいただいています。一つの動画は10分～20分程度です。

「教材紹介動画」は今後、少しずつ増やしていく予定です。教材について知りたい方はもちろん、すでに教材を使ったださっている方も、ぜひご覧ください。

・『はじめて学ぶ介護の日本語 基本の知識』①教材紹介 ②授業の進め方例

・『外国人のためのケーススタディで学ぶビジネス日本語』教材紹介、教材を使った授業の流れ例

<http://bit.ly/KyozaiShokaiDoga>



『はじめて学ぶ介護の日本語 生活知識とコミュニケーション』無料補助教材のご案内

「はじめて学ぶ介護の日本語」シリーズ、最新刊は「介護現場で触れ合う人々とのコミュニケーション力をつける」ことを目指し、現場で働く日本人・外国人スタッフ双方のニーズを反映した項目を「生活知識」と「コミュニケーション」の2パートで学びます。補助教材として、Part 1「4. 日本の食事」の料理や食材、「5. 衣服・身のまわりのもの」の色の言葉のカラー写真をダウンロードしていただけるほか、Part 2「3. 職員とのコミュニケーション ①申し送り」の音声を聞くことができます。

このほかに、本シリーズは『基本のこと

ば』授業の進め方例(動画)や特別連載日本語教科書活用講座(コラム)など、介護の仕事に関わる外国人への日本語指導に役立つ様々なコンテンツをご用意しています。

<https://bit.ly/HajimeteKaigo>



『新訂版 トピックによる日本語総合演習 上級編』発行と旧版発行中止のお知らせ

『改訂版 トピックによる日本語総合演習 上級編』の出版から10年を迎え、読み物やグラフ等のデータを差し替えた『新訂版』(ISBN:978-4-88319-867-2)を発行いたしました。『新訂版』発行にあたり、『改訂版』(旧版ISBN:978-4-88319-523-7)の発行は中止しております。注文の際は、ご注意ください。ようお願い申し上げます。

『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 翻訳・文法解説ビルマ語版』好評発売中

『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 本冊』に準拠した翻訳・文法解説書に、新たにビルマ語が加わりました。各課の「ことば」とその訳、文型・例文・会話の翻訳、その課の学習に役立つ参考語彙と日本事情に関する情報、文型及び表現に関する文法解説をビルマ語で掲載しています。

季刊ジャネット

Ja-Net No. 95

スリーエーネットワークという社名は、アジア(Asia)、アフリカ(Africa)、ラテン・アメリカ(Latin America)の三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2020年10月25日発行

●発行人 藤崎政子
 ●発行所 (株)スリーエーネットワーク
 Ja-Net 編集室
 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4
 トラストイ麹町ビル2F
 TEL: 03-5275-2722 FAX: 03-5275-2729
 E-mail: sales@3anet.co.jp
<https://www.3anet.co.jp/>

●デザイン パーシック 畑中 猛
 ●イラスト 須山奈津希(P.1, 8)
 ●印刷 (株)ワコー
 © 2020 by 3A Corporation
 Printed in Japan (禁断転載)

『Ja-Net』をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集室までお知らせください。無料でお送りいたします。次号は2021年1月25日発行予定です。